

論文タイトル：Monitoring the Molecular Conformation of Individual Amphotericin B Molecules in an Aggregated State by Raman Optical Activity

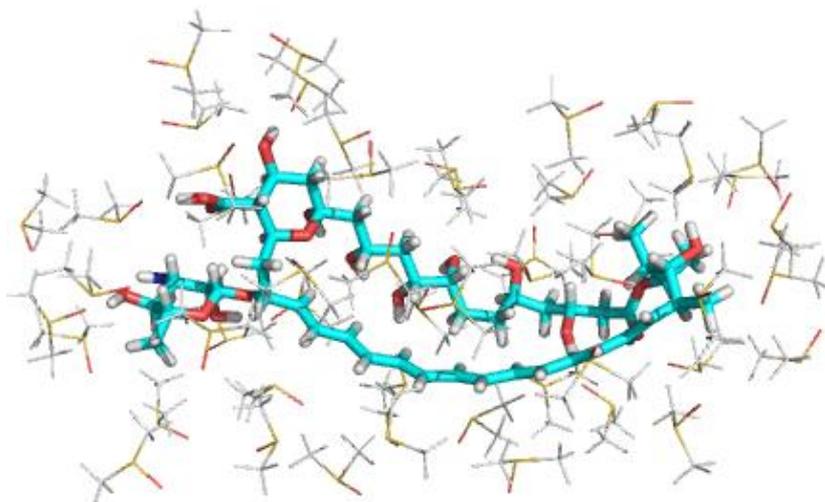
著者（責任者に\*）：Katarzyna Pajor, Grzegorz Zając, Marco Fusè, Marzena Mach-Liszka, Marta Arczewska, Mariusz Gagoś, Yoshimitsu Onaka, Tomotsumi Fujisawa, Masashi Unno\*, Małgorzata Baranska, Ewa Machalska\*

論文情報：Analytical Chemistry 97, 11754-11759 (2025)

論文要旨：アンホテリシン B は真菌（しんきん）感染症に有効なポリエン系抗真菌薬（抗生物質）の一つです。この薬剤は極めて有効ですが副作用が強いことも知られており、この副作用にはアンホテリシン B 分子の凝集体形成が関与することが知られています。しかし、凝集体を形成したアンホテリシン B 分子の構造を調べる化学的手法はありませんでした。

佐賀大学では近赤外光励起のラマン光学活性分光を用いた色素分子の構造解析法を開発してきました。海野雅司教授と藤澤知績准教授らはポーランドおよびイタリアの研究グループとの共同研究から凝集体形成に伴うアンホテリシン B 分子の構造変化をラマン光学活性分光法により明らかにすることに成功しました。この成果は薬剤が副作用を示すメカニズムの解明や今後の医薬品開発につながることを期待されます。

Illustrated image：



論文 link：<https://doi.org/10.1021/acs.analchem.5c01198>